

【資料4】

事業所ヒアリング報告

事業活動での電力消費を抑えることは、省エネルギー社会の実現のための重要な課題です。そこで、事業所との連携をめざし、事業所での今夏の節電の取り組み、実績を知り、今後の活動に活かすため、ヒアリングを実施しています（実施主体：みんなでやろう！夏のピークカット実行委員会、電気をカエル計画 滋賀）。

継続してヒアリングを行っていますが、これまでにご協力いただいた2社の回答を報告します。

- ・2012年9月24日 株式会社 沢田商店（眠りのプロショップSawada）[長浜市]
- ・2012年9月28日 株式会社 日吉 [近江八幡市]

■基本情報

- ・御社の電気料金の契約形態を教えてください。

S(沢田さん)：高压AS

H(日吉さん)：高压AS

- ・電力消費の内訳を把握されていれば教えてください。

S：店舗なので空調と照明がほとんど。照明+パソコン等3000kw、空調1500kw。

H：分析機器があるので動力、電力があり、内訳を **出す** ことは難しい。

- ・「省エネ診断」を受けたことがありますか。

S：ある。 **県によるもの**。診断結果によってエアコン入れ替えを実施した。

H：現在診断中（9月から10月で）。 **産業支援プラザ**によるもの。

■節電について

- ・節電の要請はどこからどのような内容で来ましたか。

S：主に関電。他にもいろいろなところから来たのでよく覚えていない。

H：関電。あちこちから来た。計画停電に備えて自家発電などの準備をした。

- ・今夏に取り組まれた具体的な節電対策をお聞かせください。

S：昨年はエアコンの **こまめなオン・オフ** で対応したが、今年はエアコン（**15年前の機種**）をすべて省エネタイプに入れ替えた。フルパワーでどれだけ節電できるか調べたかったので、あえて **こまめなオン・オフ** などの対策はしなかった。

照明を、5月にハロゲンビームをLEDに交換。高効率のHf蛍光灯に切り替えた。

H：電力使用状況を「見える化」した。（社内の掲示板を利用し、15分ごとのデマンド値を社員が見ることができるようにした）。 **215kWを超えると警報が鳴る**。

太陽光発電も取り入れている。10kw。

天窗を作り、照明の節電。照明器具の一部を、高効率のFHF管に取り替え。

大きな部屋の照明は電力を使うので、事務仕事のためにデスクにLEDの卓上照明を使用。

分析機器の部屋は365日24時間エアコン使用の必要。このエアコン4台を節電タイプに替え、**消費電力は33%下がった**。社内のすべてのエアコンを替えることはできないので、**古い機器の部屋では我慢の節電に挑戦した**。サーキュレータを導入してエアコンの効率を上げた。

付き合いで社内に設置している自動販売機の削減。

エコアイスは0時から3時に充電して、たまった電気がなくなるのが14時、そこからまた充電するのでピーク削減につながらないことがわかった。どうするかはこれから検討。

- ・従業員に対する節電行動の浸透をどのようにはかりましたか。

S：これを変えたらこうなる、という具体的な説明をしている。

H: 社長自らが率先して節電。計画停電への危機感から、会社をあげて節電実施に取り組んでいる。社員に一目瞭然に理解し、取り組んでもらえるような節電方法を社内で提案し、浸透させた。「**蛍光灯は周囲の温度を6℃上昇させるから卓上のLED利用を**」「**パソコンは熱を持つのでつけっぱなしはやめましょう**」などをホームページに掲載。

・節電行動に関する情報はどこから得ましたか。

S: いろいろだが、インターネットから引っ張ることが多い。

H: セミナー（県や同友会など）、インターネットなどから。

・節電の成果はどの程度あがりましたか。

S: **昨年度比67%、33%の削減。(5月80.5%、6月60.4%、7月48%、8月77.9%、9月67%)**

2006年より節電に取り組んでいる。

2006年度は電気代200万円、2011年は**144万円**で30%削減できた。

2011年は34kW、2012年は22kW。ピーク時に大幅に下がった。

H: 昨年より33.3%削減。

・節電をされてみてどのように感じられましたか。

S: 「**落ちるもんやなー**」という印象。省エネタイプの節電効果が実証された。**最大需要電力が34kWから22kWになり、ピーク時電力が大幅に下がる結果になった。**

空調の入れ替えには500万円かかったが、県の補助金(三分の一)がもらえたのでエアコン総入れ替えが可能になった。月間3~3.5万円コストダウンできるので、7,8年でもとが取れる**計算**。

H: 限界がわかった。(注: 根性で暑さに耐える節電の限界まで体験した模様)。**暑さにも慣れてきたが、「ここを超えたらエアコンを入れよう」という暗黙のルールができた。熱中症が出なくてよかったと思う。もう限界だ、と思ったが、来夏も同じようにやるだろう。**

・昨年までと電気に関する考え方や姿勢に何か変化はありましたか。

S: 2006年からずっと節電に取り組んできた。企業活動の中でエネルギーを減らすことを課題としてきた。2009年には第9回グリーン購入大賞にて大賞受賞。

H: 計画停電に対する危機感が強くなった。節電は以前から取り組んでいた。

細かいことまで徹底して節電しようとする社員が出てきた。

・今後も節電は必要であるとお考えですか。

S: 必要。

H: **必要。コスト削減にもつながる。**過剰に使っていたムダなものは削る必要がある。もしも、計画停電が実施されるようなことがあれば、分析機器は相当ダメージを受ける。病院など、本当に必要なところで使ってもらうため、可能なかぎり節電を続ける。

平成9年度のエアコンがまだ残っているが、更新には数千万円かかるので取り組めていない。

また、暑い外回りから戻る社員への配慮も必要であるため、昼食時の節電など、社内での細かいルール設定が来年度の課題。

■ピークカットについて

・「ピークカット」についてご存知ですか。

S: H: 知っている。

・電力不足が予想された電力使用量のピーク時に焦点を当てた節電対策をしましたか。

S: ピーク時の使用電力量は毎年、確実に落ちている。**今年は昨年のピークから約10kW減。エアコンのインバーター制御で3割落ちた。デマンド装置を26kWに設定したが22kWまでしか行かなかった。**

H: 分析機器があるため、デマンド契約をすることができない。独自にデマコンのような警報ソフトを開発し、警報が鳴る前に対策を取るようにした。**(担当課が警報に気づかず、使用量をオーバーし**

てしまったこともあり)。

・夏場、冬場のピーク時の節電対策の違いを教えてください。

S：いま頭を悩めているところ。2月のピーク対策がいる。ハロゲンビームは冬場暖かいという利点があった。ハロゲンを減らしたので補助暖房が必要になるかもしれない。エアコンで調整する。

H：基本的に夏と同じ。冬は二重窓が効果を発揮する（エアコン抜きの夏には暑い）。

■照明について

・照明器具は省エネタイプのものを使っていますか？ 使われている照明器具を教えてください。

S：省エネ型は、LED、高効率蛍光灯。一部ハロゲンも残っている。

H：省エネ型は、Hf管、LED。一部に白熱灯もあるが、全部を替えるには資金的に難しい。施設の改修を兼ねて考えていきたい。

・省エネタイプへの更新がまだなら、導入の壁になっているのは何ですか。

S：LEDは色味、明るさ、指向性など、店舗照明に向かない。単に節電のためだけに交換することはできず、検討中。(導入したものは、5社ぐらいの製品を比較して、シャープを選んだ)。

H：設備投資資金。

■空調について

・空調での節電の取り組みをされていますか。

S：エアコンをすべて省エネタイプに切り替えた。

H：温度を一定に保つ必要のある部屋のエアコンを省エネタイプに切り替えた。その他の部屋では、暑さを我慢し、冷房を控えた。

・設定温度は何度ですか。(夏・冬)

S：夏26℃、冬21℃

H：夏28℃、冬20-22℃

・空調設備はどのようなものですか。

S：H：電気式エアコン

・ガスヒートポンプエアコンをご存知ですか。

S：知っているが、既存の配管が使えないので設備投資が上がり現実的でない。

H：知っているが、プロパンガスでは不可能。都市ガスの来ているところまで自力で4kmの配管をしかないといけないために導入できない、

■デマンドコントロール装置(デマンドコントローラー)について

・デマンドコントローラーを導入していますか。デマンドコントロール装置は節電に有効でしたか。

S：はい。去年は有効だったが、今年はほとんど必要なかった。26kWでセットしたが22kWまでしかいかなかった。来夏は23kWぐらいにセットしようかと考えている。

H：いいえ。分析機器があるのでデマコンは導入できない。代わりに独自の警報システムを開発、使用している。

■エネルギー問題について

・今夏の電力不足対策としての原発再稼働についてどう思いますか。

再稼働の前後で、節電対策や意識に差が出ていれば、教えてください。

S：再稼働はやるべきだった。リスクを考えれば仕方がない。原発とCO2のリスク判断も必要。

節電要請が15パーセントから10パーセントになったとき、一般家庭では節電はもういいか、となったのでは？

感情で原発を語るべきではない。現実を見極め、できることを実行するのみ。

これ以上動かさないでください、という以上はやることはやらなければならない。自分がやることをやって、その上でどうなのということを考える必要がある。

H：**原発はないに越したことはないが、正確な情報が出されていないため、判断できない。関電は真摯に正確な数値を公表すべきだ。本当に足りないのか、実は足りているのかわからない。将来展望を示した上で、足りない部分は動かすのは仕方がないと思う。**

・再生可能エネルギーの今後の可能性についてどう思いますか。

S：国策としてきちんとやるべき。**原発は新規建設はありえないし、古いのは順次止めていくため、いずれはゼロになる。政策ミックスの中で議論すべきこと。**

H：国は正確な情報を出し、今後、未来に向けた展望をきちんと示すべき。一つの会社が節電に取り組むだけでも、かなりの情報収集、分析、工程、見直しなどの検討をした。国が国民を守るためにしなければならないことを全くしていない。方針を決め、ロードマップをつくり、実行に移すべき。個人的には**自然エネルギーに可能性はあると思うが、現在の高額買取は早くやめるべきと思う。**大企業の利潤が上がり、ますます格差が出るはず。

・今後、電力不足に悩まされないために何が必要だと思えますか。

S：省エネルギー社会の実現。大企業は設備投資できるだろうが、中小企業は難しい。**古い空調をたかだか15年で替える中小企業はない。やりたくてもやれないことがある。モラルと実行を上げるための取組にはギャップがある。**

H：正しい情報から事態を分析、実現可能な見通しを立て、実行すること。
正確な情報を出してほしい。

以上、報告でした。

ヒアリング結果 考察

(担当：村木奈々子)

今回、お伺いした事業所2社は節電の意識が高く、相当な実績を上げておられました。実績だけでなく、会社の姿勢そのものが尊敬に値する社会貢献度の高い事業所でした。今後、この実績を例に挙げながら、多くの事業所への働きかけが可能になると思います。

節電に必要であると思われること

- ・節電意識
- ・実行力
- ・創意工夫
- ・危機感
- ・社会への問題意識
- ・会社の姿勢（社長の意識重要）
- ・適度の我慢
- ・設備の省エネタイプへの取り替え→効果抜群
- ・そのための設備投資費用（補助金等）

省エネルギー社会の実現のためには何が必要か

- ・節電効果は、設備を省エネタイプに取り替えることで、大幅にアップする。
課題となるのは、設備投資費用である。補助金制度、節電ファンドなどのバックアップ制度があれば踏み切れるのではないか。今後、行政、金融機関、市民が提携し、省エネ社会に向けた資金的な制度づくりをすることが必要であると思われる。

以上